

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

1999年(平成11年)2月15日 No. 1116

目次

ロシア新興財閥、祭りの後に来たもの.....	坂口 泉 1
(参考資料) 《ロシア・ペトロリウムおよびコヴィクタ・プロジェクトについて》.....	10
カザフスタン共和国政府人事一覧.....	12
CIS諸国通貨の最新為替レート.....	13

ロシア新興財閥、祭りの後に来たもの

—インターロスの場合—

はじめに かつてロシア経済改革のけん引車となると期待されていた新興財閥(金融・産業グループ)の衰退ぶりが、最近、著しいように思われる。衰退傾向が顕在化したのは、新興財閥の核を成す多くの大手商業銀行が致命的ともいえる打撃を受けた1998年8月の金融危機以降であるが、兆候はそれ以前より現れていた。

たとえば、1997年後半頃より、新興財閥のトップが、「生産企業のリストラは予想外に困難である」という主旨の発言を行うケースが増えてきていた。新興財閥のトップたちは、当初、西側の市場主義経済の原理に則ったマニュアルをそのままロシアの生産企業に適用すれば企業リストラは成功するとかかなり安易に考えていたふしがある。しかし、現場での作業を続けるうちに、彼らは、ロシア特有の事象(たとえば、地方に色濃く残る社会主義のメンタリティー等)を無視した企業リストラは不可能であるという現実と直面した。つまり、新興財閥の幹部にとっては、市場主義経済は絶対的善なのだが、その「絶対的善」が、ロシアの生産現場においては、「悪」として評価されることが多いという現実が存在したのである。恐らく、その苦い現実が、新興財閥のトップたちに、上記のような弱気な発言を行わせたのであろう。

旧い「善」と新しい「善」の対立の構図の中に妥協点を見いだすという地味で困難でかつ体力のいる作業を続けるうちに、やがて、金融危機が勃発し、多くの新興財閥が、そのような作業を根気よく続けるだけの余力を失ってしまった。その結果、いくつかの新興財閥は深刻な分裂あるいは縮小の危機に直面している。石油の国際価格の下落傾向もあり、なかでも特に、石油企業を傘下におさめる新興財閥の状況が深刻なようである(チュメニ石油会社を傘下におさめるアルファ・グループだけは比較的好調のようだが)。本稿では、そのような新興財閥のうち、インターロス・